

## 再 評 価 書

箇所名	林道 野又越線	事業名	林道事業	課 名	治山林道課														
事業概要	工 期 (下段前回)	平成3年～44年	全体事業費 (下段前回)	6,560百万円(負担率:国 50:県 50)															
		平成3年～31年		6,560百万円(負担率:国 50:県 50)															
事 業 目 的 及 び 内 容																			
<p>(1)所在地 紀北町大字十須字江竜地内の国道422号を起点とし、大台町大字桧原字野又谷の国道422号を終点とします。</p> <p>(2)事業の目的 紀北町、大台町両町の基幹的な林道として地域の森林整備を促進します。併せて、古くから文化的な交流があった両地区を連絡する生活道として、海と山の資源を活かした交流を通じた地域活動を促進し、両地域の振興を図ることを目的とします。</p> <p>(3)全体計画 ①延長 : 15,621m[うちトンネル840m] ②幅員 : 5.0m ③事業費 : 6,559,800千円(420千円/m)[うちトンネル1,800,000千円] ④事業期間: 平成3年度～平成44年度(42年間)</p> <p>(4)利用区域の森林資源の状況 利用区域面積は1,378ha、民有林は1,111ha、そのうち人工林866haで、民有林の人工林率は63%です。国有林が267haあり、そのうち29haが人工林で国有林の人工林率は11%です。人工林の89%が11～60年生の間伐対象年齢で、5%がそれ以下の下刈り、除伐等の手入れが必要な森林です。</p>																			
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果																			
<p>1 再評価を行った理由 平成25年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>																			
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1)事業着手 平成3年度全体計画調査実施、平成4年度より5工区で着工、現在は2・3工区で実施中。</p> <p>(2)進捗状況(平成29年度末の事業量) ①完成延長 : 13,547m(進捗率:87%) ②事業費 : 4,022,591千円(進捗率:61%)</p> <p>(3)課題 県予算の推移が当初想定したものよりも縮小したことから進捗に遅れが生じたため、事業期間を延ばさざるを得ず、完成が平成44年度となります。</p> <p>(4)利用区域内の森林整備状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">期 間</th> <th colspan="2">H 30 調 査 時 点</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>整備面積</th> <th>うち間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H5～24</td> <td style="text-align: center;">1,926 ha</td> <td style="text-align: center;">1,022 ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H25～29</td> <td style="text-align: center;">174 ha</td> <td style="text-align: center;">160 ha</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						期 間	H 30 調 査 時 点		備 考	整備面積	うち間伐	H5～24	1,926 ha	1,022 ha		H25～29	174 ha	160 ha	
期 間	H 30 調 査 時 点		備 考																
	整備面積	うち間伐																	
H5～24	1,926 ha	1,022 ha																	
H25～29	174 ha	160 ha																	

### 3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

#### (1) 周辺環境の変化

- ① 大台町では、平成29年度に第2次大台町総合計画前期基本計画を樹立し、「木材生産基盤の整備」、「木材流通体制の整備」等を施策とし、林業振興に取り組んでいます。
- ② 紀北町では、平成29年3月に紀北町第2次総合計画前期基本計画を樹立し、「森林整備の推進」、「地元材の新たな利活用の促進」等を施策とし、林業の振興に取り組んでいます。

### 4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

#### 4-1 費用対効果分析

##### ① 前回再評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】(H25年時)	
B(便益)	10,624 百万円
C(費用)	8,595 百万円
B/C	1.24

##### ② 費用対効果分析の結果

費用便益比(B/C)

B/C	B(便益)	C(費用)		
1.16	総便益(B)	11,035 百万円		
	事業費(C)	9,497 百万円		
	・木材生産便益	1,444 百万円	・林道事業費	8,740 百万円
	・森林整備経費縮減便益	6,327 百万円	・造林事業費	636 百万円
	・一般交通便益	76 百万円	・維持管理費	120 百万円
	・災害等軽減便益	2,689 百万円		
	・維持管理費縮減便益	296 百万円		
	・その他の便益	205 百万円		

##### ③ 感度分析の結果

感度分析の結果(±10%)は、B/C=1.04となっています。

#### 4-2 その他の効果

特にありません。

#### 4-3 地元意向

- (1) 大台町では、主要な産業である林業の振興と、森林の適正な管理を推進するため、また紀北町では、尾鷲ヒノキの産地であり林業振興が重要な課題であることや、豊かな水産資源の背景となっている森林に対する住民の関心が高く、森林の適正な管理が求められており、両町の連絡路としての役割も期待されることから、事業の継続を望んでいます。

### 5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

#### 5-1 コスト縮減

地形にあった波形線形の採用や、路肩の縮減、またコンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用し、土工量及び法面保護工を削減しコスト縮減を図ります。

#### 5-2 代替案

当路線の利用区域内の森林整備を図り、両町を連絡する必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

### 再評価の経緯

#### 《平成25年委員会意見》

事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承するとともに、事業効果の早期発現のため、早期の事業完成に努められたい。

### 事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、一層のコスト縮減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。